

実施計画事業評価調査

評価対象年度 30年度

事業コード	23100501	事業名称	市民大学事業	事業区分	通常事業
担当	生涯学習部	生涯学習課	問い合わせ先	048-259-7655	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 19 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち” - 3 市民が自己実現をめざせる環境づくり - ① 生涯学習活動の支援
根拠法令等	川口市市民大学設置要綱

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市内在住・在勤・在学の18歳以上の方	同左	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	生涯学習社会が進展する中で、市民の高度で多様な学習要求に応える。市民が「生きがいづくり」「自己実現」を達成し、より豊かで充実した人生を送ることに貢献する。	市内外の高等教育機関や公民館などの社会教育施設と協力し、文学・歴史・自然科学等の一般教養や専門的知識を学ぶ講義のほか、現代的課題等を取りあげる講座を開催する。	
30年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	人材バンク魅学、大学教授など多くのジャンルから講師を招き、歴史、英会話、情報機器などの広い分野の講座を開催した。	項目	実績 単位
		川口市市民大学講座実施回数	152 回
事業の成果 【定性的評価】	市民大学として、歴史、芸術、情報、自然科学など多岐にわたる37講座、152回を実施し、延べ4,751人が受講され、市民の学習意欲に応えることができた。公開講座ではさかなクンを講師として招き、小学生以上を受講可能とし、受講生から高い満足を得られた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	川口市市民大学講座数			指標・目標値の説明(算定式)	教育委員会主催講座(10講座)及び社会教育施設主催講座(28講座)を実施。1講座4回以上開催。				
	単位	回	指標の種別	活動						
	目標値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度				
	実績値・達成状況	156 達成	155 達成	152 達成	152 達成	152 達成				
指標②	名称	受講生の満足度			指標・目標値の説明(算定式)	教育委員会主催講座(10講座)における受講生アンケートにおいて、「とても満足」「満足」と回答した割合の平均値。				
	単位	%	指標の種別	成果						
	目標値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度				
	実績値・達成状況	86.10 達成	87.90 達成	88.90 達成	80 達成	80 達成				

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	01目	004細目	01細々目	市民大学事業			
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度					
予算額(A)	2,820	2,763	4,245	4,282	4,282					
決算額(B)=(C)+(D)	2,342	1,772	3,835							
財源※	特定財源(C)	132	189	253	300					
	一般財源(D)	2,210	1,583	3,582	3,982					
概算人件費(E)	4,920	4,680	4,740	4,740	4,740					
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.60	0.00	0.60	0.00	0.60	0.00	0.60	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	7,262	6,452	8,575	9,022	9,022					

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
56 /60	講座開催日時や内容を工夫して、若い世代の方も参加しやすくなるような企画をしているところではあるが、人気のある講座以外にも、新規の講師を招いたり、内容を工夫して講座を開催して参りたい。	元年度 現状維持で実施 2年度 現状維持で実施 3年度 現状維持で実施

事業コード	23100501	事業名	市民大学事業
部会名	第二部会	担当課	生涯学習課

【評価の観点及び判定】

・各観点について一定の基準に基づき判定しています。

	評価の観点					選択肢	
	①趣旨・目的及び達成手段	②事業の効果	③事業の効率化	④課題解決への取り組み	⑤今後の事業の方向性		
A委員	3	3	2	3	2	4 適正	適正な事業運営がなされている
B委員	3	3	2	2	3	3 概ね適正	工夫や改善の余地があるが、概ね適正な事業運営がなされている
C委員	3	3	2	3	2	2 改善の必要あり	概ねこのままの事業運営で差し支えないが、工夫や改善が必要である
D委員	3	4	3	3	3		
E委員	3	3	2	2	1	1 抜本的見直し	抜本的に事業の運営を見直したほうがよい
部会全体	3	3	2	3	2		

【評価結果(委員)】

- ・部会員からの評価(意見・アドバイス等)は、以下のとおりです。
- ・評価の観点ごとにコメントを並べて掲載しております。
- ・複数の部会員から同様のコメントを頂いた場合は、集約をせずに掲載しております。

No.	I. 評価の観点	II. 評価コメント
1	①趣旨・目的及び達成手段	地域に根ざした活動であり、評価できる。
2	①趣旨・目的及び達成手段	文化的事業を行うことは市として必要である。
3	①趣旨・目的及び達成手段	生涯学習は若年層からのスタートが重要である。
4	①趣旨・目的及び達成手段	地域に根ざした運営がされており、かなり評価できる。
5	②事業の効果	対象の問題については、18歳以上と謳うならば、そのような講座内容にするべきであるが、それは建前であり、実際はそうではないようにも感じる。若者に対するアプローチの戦略が明確ではない。
6	②事業の効果	人気講座もあるということは、一定の効果はあると思う。
7	②事業の効果	現在の講座内容で、50～60代の参加者に喜ばれているのであれば、事業としては成功だと思う。
8	③事業の効率化	「盛人大学事業」と「市民大学事業」について、両者は異なるものであると担当課は明確に認識しているが、市民は理解できないため、同様なものが2つあるとってしまう点が効率的ではない。

No.	I. 評価の観点	II. 評価コメント
9	③事業の効率化	対象を18歳以上としているのであれば、若年層をターゲットとした講座をもう少し増やしてもよいと思う。
10	③事業の効率化	「盛人大学事業」との垣根がわかりづらい。
11	④課題解決への取り組み	対象を18歳以上としていることに関して、もう少し工夫の余地があると思われる。
12	④課題解決への取り組み	若年層を対象とするのであれば、例えば、一眼レフカメラの使い方講座等の流行を取り入れてはどうか。
13	⑤今後の事業の方向性	「市民大学事業」と「盛人大学事業」について、相互補完もしていなければ、競争もしていないため、そうであれば1つの事業にしてもよいのではないかと考えてしまう。
14	⑤今後の事業の方向性	「盛人大学事業」と重複する部分があるため、お互いの情報交換をして、「盛人大学事業」との棲み分けをしてはどうか。
15	⑤今後の事業の方向性	若年層を対象とした、生活する上での必要な知識を学べる機会を設けてはどうか。
16	⑤今後の事業の方向性	若い世代を取り入れたいのであれば、内容をかなり検討する必要がある。
17	⑥事業全体を通した総合的な評価	現状では「盛人大学事業」との違いが分からないが、組織として統一できないのであれば、18歳以上を対象にしていることを前面に出して、講座を設けることも考えてはどうか。
18	⑥事業全体を通した総合的な評価	18歳以上が対象ということで、若者の参加も考慮する必要もあるが、実情ではどのような対策をとっても、若者の参加は難しいと思う。そのような意味では、現状の運営方法は理に適っている。

【評価結果(第二部会)】

- ・部会員からの評価(意見・アドバイス等)を受け、部会としての評価結果を以下にまとめました。

評価コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・「趣旨・目的及び達成手段」については、地域に根ざした活動として、きちんと行われており、かなり評価できる。 ・「事業の効果」については、18歳以上を対象とすることを謳っている以上、参加者も少なく、若者が魅力を感じるような講座も少ないことから、「概ね適正」という評価ではあったが、有効性に関しては、若干疑問が残る。 ・「事業の効率化」に関しては、「市民大学事業」と「盛人大学事業」について、担当者は全く異なるものと理解しているが、市民目線では分からない。市民が理解できない説明からなる事業を継続していくことは、見直すべきではないかと思う。 ・「課題解決への取り組み」について、若者をターゲットとするのであれば、それなりのアプローチが必要であるが、その点に関してあまり重視しないのであれば、重視していないことを明確にすべきである。 ・「今後の事業の方向性」については、「市民大学事業」と「盛人大学事業」は、相互補完関係でもなく、競争関係にもなっておらず、ただ並存しているというのは、非効率である。両事業について、明確な棲み分けを考える時期なのではないか。 ・若年層の人に魅力のある企画を立てられるのは、若年層本人達であると思う。このような企画を立てる際に、若年層の人たちが、それを行ってみるといのは1つの方策であると思う。